

Reportage

北のさいはて、利尻島における 地域医療のモデル的展開①

医療ジャーナリスト 北川 巳代

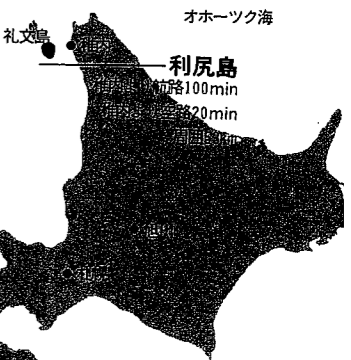


図1 利尻島の地理的位置

「いつでも、どこでも、だれでも」と日本の医療に関して合い言葉のような評価がある。しかし、その同じ皆保険制度のもとにある医療過疎地の現実はまだまだ厳しい。北のさいはて、北海道・利尻島の国保中央病院では、若い医師たちの気概と創意工夫が、不自由な状況をカバーして、僻地を感じさせないほどの地域医療を推進。学術的視点も常に加えて改善を図り、住民や行政の信頼を得ている。『総合医』たちの診療ぶりを現地取材した。

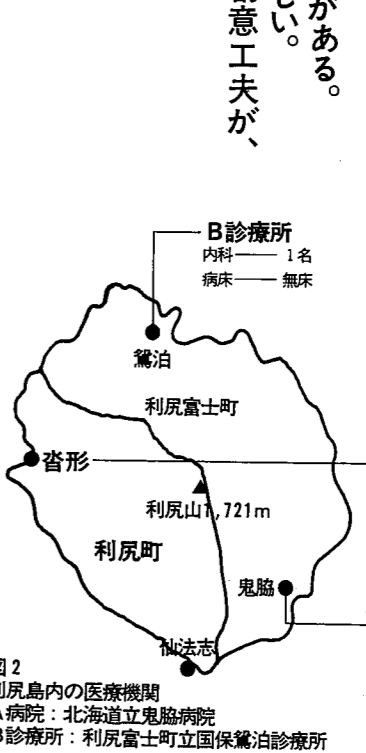


図2 利尻島内の医療機関
A病院：北海道立鬼脇病院
B診療所：利尻富士町立国保鷺泊診療所

広域医療システムの リーディングケース

「何とか働ける程度に健康ならばいい」——これが島の人たちのおおかたの考え方だ。高齢社会ではこれも一つの選択であろう。しかし、
「病気がひどくなって、本当につらくなってしまうからようやく病院に足を向ける漁師さん。がんが末期になってからかぜらしいとやってくるお年寄り。これではいくら努力しても治療効果は上げにくく、患者、医師両方にとって残念

な思いが残ります。そこで私たちは健康に対する住民の意識そのものを変え、ことに努めてきました」
利尻島国保中央病院の院長室、西野徳之院長(三五歳)の声は明るい。
利尻島は、利尻・礼文サロベツ国立公園のなかにある日本最北端の島の一つ。稚内の西方六五kmの日本海にポツカリと浮かび、遠くサハリンが望める。
稚内市との交通機関はカーフェリー(片道一〇〇分、観光シーズンで一日四往復)と飛行機(一九人乗りツインオッター機、片道二〇分、一日二往復)。漁業と観光が主な産業だ。ウニ、昆布、アワビ、ヒラメ、ソイ、ホッケなどの魚介類が中心。島の中央に利尻富士がそびえ、島一周(五三km)で変化する景観や高山植物のなかの登山の魅力で、春から夏には約七〇万人の観光客が訪れる。
冬は季節風が強く一月下旬から三月下旬まで積雪。時々激しい吹雪にも見舞われる。
ニシン漁が盛んだった昭和三〇年代に二万人を超えていた島の人口は、漁の衰退とともに若年層が都市へ流出して過疎化が進行、現在約九〇〇〇人。高齢化率は高く二〇%を超えている。過疎化現象と高齢化の進むなかで、行政当局では、地域活性化に向けて漁業の基盤整備および観光開発などを重点施策として推進している。最近若者のUターン現象も少しずつみられるという。
このような地理的環境、産業、人口構造を背景に、前身の利尻町立病院が利尻島国保中央病院として再発足した

のは一〇年前の昭和六〇年一〇月。島内二つの行政区(利尻町、利尻富士町)の共同出資による北海道ではじめての一部事務組合病院である。
また、一五年前から自治医科大学から医師が来るようになった。この間、利尻の医療にかけた自治医大出身の医

師らの気概と努力は大きく、その実績は高く評価されている。
そこで、北海道でも広域的な医療システムのリーディングケースとされ、僻地医療のモデル的病院ともいわれている同病院の取り組みをシリーズで詳しく紹介してみたいと思う。

島の中核病院として 機能の向上、充実を図る

利尻島国保中央病院は島のフェリーターミナルの一つ、沓形港に近い沓形町の中心部にある。四二〇〇㎡あまりの敷地のなかに、延床面積二六〇〇㎡ほどの鉄筋コンクリート建て地上二階地下一階建ての建物がある。
標榜科目は、内科、外科、婦人科

の二つの医療機関がある。
しかし、全島の患者の八割、救急車のほぼすべては国保中央病院で受け入れており、文字通り島の中核病院となっている。
このため成人病等慢性疾患はもちろんのこと、救急や悪性疾患への対応に向けた機能の充実も図っている。
特に医療機器や設備は、離島という特殊性をカバーするためあって、血液自動分析装置、サーボベンチレーター、全身用CT、カラードップラー超音波診断装置、超音波内視鏡、画像伝送システムなど、かなり高度なものも導入している。
同病院には前身の町立病院時代の八年から、北海道の地域医療政策にもとづいて、自治医大卒業医師が派遣されている。二年ごとのローテーションで、これまでに歴代一七人が勤務して

往診、健診などを実施し、 住民意識の向上にも注力

観光客に交じって記者が病院を訪れたのは八月上旬。二日間の欠航のあと、ラッキーなフライトだった。二人がかりで操縦するツインオッター機は、あつという間に利尻空港に着く。薄曇りの島の外周を一巡する。潮



病院を支える自治医大出身の常勤医たち

一日平均の入院患者は約三五人、平均在院日数は一一・四日。外来は一日一七〇人から二〇〇人となっている。
利尻島には、他に北海道立鬼脇病院(三三床・外科医一名、利尻富士町立国保鷺泊診療所(無床・内科医一名)

風のためにあまり大きく成長しない木々、タンポポモドキの花やみどりの山菜、そして散在する漁港。時節柄、昆布干しが盛んだ。一年中でもっとも活気づく、猫の手も借りたしはしのシーズンだ。高齢者だけの作業もあちこちに